

平成 28 年 3 月 24 日

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 林 高正

実施場所： 群馬県上野村

実施日： 平成 28 年 3 月 22 日～
3 月 23 日

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

会派で提案を続けている林業振興策の一つとしての木質バイオマス発電と熱活用では、木質ペレットが重要な位置を占めていますが、本市の「里山ペレット」が製造しているペレットは品質にバラつきがあり、評価は芳しくありません。そこで、自前でペレットを製造し、ペレットガス化発電装置を昨年 4 月より稼働させている上野村の状況を調査・研究するために訪れました。

■参考とすべき事項

上野村は 96%が森林という平地が殆どない山岳地帯と言っても過言ではありません。人口は僅か 1,300 人ほどですが、林業振興策と定住促進策としての菌床シイタケによる「きのこセンター」の稼働（60名の雇用）、ペレット工場の稼働（6名雇用）などで、Iターン者 238 人（18%）となり 138 世帯分の村営住宅を整備しましたが、供給不足状態が続いているそうです。菌床の材料も広葉樹のおが粉ですので、先代の町長から一貫して、産業は山からという信念というか執念さえ感じます。私は今回の視察で、「諦めない」という言葉を再認識しました。そのためには、徹底したリサーチにより市場動向を見極め、投資は積極果敢に行い、PDCA サイクルを回しながら村を元気にするという上野村方式が過疎地脱却の処方箋となってくる気がします。石破大臣も視察に訪れたそうですが、どう思われたか聞いてみたいものです。私たちは、「これがない、あれがない」と嘆いてばかりいますが、田んぼがない、畑がないと逃げ出した上野村の人は殆どいないそうです。山肌へへばり付いたように建つ家に空き家はなく、生活がそこにはあります。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

ペレット製造に関しては間違いなく上野村方式が格段に優れていることは間違いありません。それも、ガス化発電に使えるランクになっていることは大変な驚きでもありました。我々の会派の人間しかブルクハルト社製のガス化発電並熱装置（CHP）を知らない訳ですが、庄原市の最大の財産である森林の利活用を考えるなら、是非とも、上野村に行ってみて欲しい。正直、熱利用に関してはまだまだ研究の余地は沢山残されているが、ホワイトペレットでなければ稼働しないといわれていた CHP を、上野村産のペレットで動かしているのは正に驚愕の事実である。中山間地域の過疎地域で、ペレットのガス化発電並熱装置により、トマトやイチゴやメロンなどの野菜や果物の周年栽培が可能となります。全国から上野村への視察は、1年間で約 1000 人にもなるそうです。そんな中、高山市は導入を決められ、全国各地の自治体も積極的に導入に動かれているそうです。山の中ですることだから庄原市には意義があるのです。自分たちの財産を沿岸部に持ち出して、企業が発電で利益を上げることに中山間地域に何の恩恵があるのでしょうか。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成28年3月25日

調査・研修報告書(会派個人用)

報告者：徳永泰臣

実施場所： 群馬県上野村	実施日：平成28年 3月23日
■目的・課題・問題事項 ○ 群馬県上野村が進める村内木材を活用した、木質バイオマス発電と熱供給による椎茸栽培の状況視察。	
■参考とすべき事項 ○上野村は人口1315人(内Iターン者213人)で人口の約2割がIターン者である上野村は群馬県で最も小さい自治体で、村面積の96%を占める森林を効果的に活用する林業振興、新エネルギーの活用対策、バイオマス有効活用による村内循環型社会の構築策への取り組みを続けられている。 ○Iターン者が多いのは、具体的対策として、定住者が村内で安心して働く事ができる雇用の場の創出、定住者が安価で優先的に居住できる住宅整備、財政的な不安から迷っている人達に対する生活支援策の提供などを推進され、それが結果として表れている。 ○上野村は村内で生産されている、木質ペレットを燃料として利用し、木質ガスによる発電を行い、同時に発生する熱を供給し、上野村きのこセンターを運営され50人もの新たな雇用とバイオマスエネルギーの村内循環を図られている。 ○この発電システムは、私達会派「きずな」がドイツ視察研修を行ったドイツ・ブルクハルト社製の180KWのペレット発電システムで、日本では初めて導入され、順調に可動されていた。 ○現在の課題としては、熱供給での完全な有効活用がなされていない点。今後はイチゴ等のハウス建設による熱供給を考えているとの事でありました。	
■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など) ○ 庄原市は、98000haもの森林の有効活用、森林バイオマスの活用による市内循環社会の構築への取り組みによる雇用の創出など、Iターン者の多い上野村の取り組みを是非参考にされるべきと思う。私達もこのような取り組みを実行されるよう提言し続けたいと思います。 是非、市長も早期に見ておかれるべきと思います。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。